

勘定科目の設定について

1. はじめに

複式簿記の仕訳に準じて仕訳を行うことにより、貸借対照表と収支計算書が作成できます。仕訳については、別紙マニュアルを見てください。勘定科目はほぼ自由に設定できますが、正常な会計処理を行うためには、次の点を注意しながら科目の設定をしてください。

- らくらく会計を導入した最初に勘定科目の設定をしてください。
- 仕訳を入力した後での勘定科目の変更は慎重に行ってください。
具体的には
仕訳伝票は科目コードで管理していますので、科目名などを変更するとすべての仕訳に変更したものが反映されます。
勘定科目の削除は仕訳入力で使用していないものだけに限り行ってください。
科目コードの変更は行わないでください。
- 勘定科目の役割は、次に説明する科目の属性(フラグ)で決まります。正しく設定しないと正常な会計処理ができません。

◀ ▶ ⏪ ⏩ + - ▲ ▼ ✓ ✕ 科目印刷 補助科目印刷 資金収支科目へのコードジャンプ 補助科目の設定は補助 = 1 にして、ダブルクリック									
勘定科目(B/S,P/L)									
▼ 科目コード	科目名	FlgA	FlgB	FlgC	小科目	補助科...	FlgG	FlgH	消費税
▶ 10000	1. 資産の部	9	1	0					
11000	1. 流動資産	3	1	0					
11010	現金預金	1	1	0					
11020	現金	0	1	0	1		1		
11030	預金 1	0	1	0	1		1		
11040	預金 2	0	1	0	1		1		
11050	預金 3	0	1	0	1		1		
11060	預金 4	0	1	0	1		1		
11070	預金 5	0	1	0	1		1		
11090	未収金	0	1	0			1		
11100	立替金	0	1	0			1		
11110	短期貸付金	0	1	0			1		
11120	仮払金	0	1	0			1		
11130	前払金	0	1	0			1		
11140	有価証券	0	1	0			1		
11200	* 資金諸口 *	0	1	0			1		
11210	* 非資金諸口 *	0	1	0					
12000	2. 固定資産	3	1	0					
12100	基本財産	2	1	0					
12110	土地	0	1	0					
12120	建物	0	1	0					
12130	その他の基本財産	0	1	0					
12500	運用財産	2	1	0					
12510	構築物	0	1	0					
12520	車両・運搬具	0	1	0					

2. 科目の属性

FlgA,B,C. . . は勘定科目の性格を決める重要な属性となります。らくらく会計ではこれを科目のフラグといいます。

- 仕訳伝票は科目コードでデータ処理をしていますので、運用途中での科目の変更は慎重に行ってください。
- この設定を間違えると正常な会計処理が出来なくなります。フラグの数値はシステムで演算する際に使います。
- システムパラメーターは変更や削除はしないでください。

FlgA	0=仕訳科目 1=小科目計 2=(大)計 3=大計 4=区分計 5=借方合計、貸方合計 9=コメント
FlgB	1=貸借対照表科目 2=収支科目
FlgC	0=借方科目 1=貸方科目
小科目	1=小科目
補助科目	1=補助科目
FlgG	1=流動資産、流動負債の科目 110,111,112 = 繰越金に係るフラグ 1 = 現金預金入力の対象科目
FlgH	使用していません。
消費税	消費税計算で説明します。

3. 科目編集の基本操作と整列順

- ナビゲータについて



おもな操作について

科目の挿入	挿入したい場所の一つ下にカーソルポインタを移動させて「+」をクリックしてください。空白の行が挿入されます。
科目の削除	削除したい場所にカーソルポインタを移動させて「-」をクリックしてください。
変更の確定	「✓」を押してください。 または、カーソルポインタを他の行に移動しても確定します。
編集の取消	「✕」を押すと、編集は取り消されます。 ただし、カーソルポインタを移動させると確定しますので、取消は出来ません。

- 科目の整列順

B/SとP/L科目は科目コード順に整列

勘定科目(B/S,P/L)		資金収支の科目(C/F)
科目コード	科目名	
10000	I 資産の部	
11000	1. 流動資産	
11010	現金預金	
11020	現金	
11030	預金 1	
11040	預金 2	

C/F科目は連番で整列

勘定科目(B/S,P/L)		資金収支の科目(C/F)
連番	科目コード	科目名
100		I 事業活動収支の部
200		1. 事業活動収入
300	50030	基本財産受取利息収入
400	50040	基本財産受取配当金収入

4. 科目編集の例

科目の挿入

- 科目挿入をしたい位置の一つ下にカーソルポインタを移動して、「+」をクリックしてください。一行の空白が出来ますので、ここに新しい科目を入れて下さい。
- 勘定科目の科目コード
科目コードは前後の科目コード間の数値で決めてください。
科目コードが重複するとエラーになります。番号を詰めてしまうと以後は挿入が出来なくなりますので、余裕を持った科目コード付けをすすめます。
- 科目名を入れ、FlgA, FlgB, FlgC等を入れます。

科目の削除

- 削除したい科目の位置にカーソルポインタを移動して、「-」をクリックしてください。
- 確認表示の後に、削除が実行されます。
- 既に仕訳で使用した科目は削除しないで下さい。削除すると正常な会計処理が出来なくなります。【重要】

小科目の設定方法

- 次の例は「現金預金」に小科目を設定した例です。
- 「現金預金」科目のFlgAを「1」にします。
- 次の例では現金～預金6までの合計金額が「現金預金」に集計されます。

設定例1

科目コード	科目名	FlgA	FlgB	FlgC	小科目	補助科
11010	現金預金	1	1	0		
11020	現金	0	1	0	1	
11030	預金 1	0	1	0	1	
11040	預金 2	0	1	0	1	
11050	預金 3	0	1	0	1	
11060	預金 4	0	1	0	1	
11070	預金 5	0	1	0	1	
11080	預金 6	0	1	0	1	

設定例2

21040	預り金	1	1	1		
21050	預り金（所得税）	0	1	1	1	
21060	預り金（住民税）	0	1	1	1	
21070	預り金（社会保険）	0	1	1	1	
21080	預り金（退職共済）	0	1	1	1	
21090	預り金（雇用保険）	0	1	1	1	
21100	その他預り金	0	1	1	1	

【補足事項】

- 収入(益金)科目や支出(損金)科目に小科目を付けた場合は、その小科目に予算をいれてください。

- 小科目の集計科目には仕訳入力出来ません。
- 資金科目と連携する科目は、資金収支科目にも同様な小科目を設定してください。

補助科目設定

1. 補助科目を付けたい科目の「補助科目」に1を入れると行が赤色にかわります。

勘定科目(B/S,P/L) 資金収支の科目(C/F)		FlgA	FlgB	FlgC	小科目	補助科...	FlgG
科目コード	科目名						
55060	事／退職給付費用	0	2	0			
55070	事／福利厚生費	0	2	0			
55080	事／旅費交通費	0	2	0		1	
55090	事／通信運搬費	0	2	0			
55100	事／減価償却費	0	2	0			

次のような補助科目の設定画面が出ます。

補助科目名は通常同じ名称にしますが、必要があれば部門別の名称にすることも出来ます。部門別に名称変更は補助科目の設定を行ったあとで行ってください。

補助科目の設定

部門別の名称

☐ する ☒ しない

補助科目の設定

部門別の名称

☒ する ☐ しない

部門別名称変更

補助科目の設定の後で
補助科目名は会計別の名称変更
も可能です。

2. 補助科目の設定ボタンを押すと次のような画面になります。

コード 科目名

001 ○○○

002 □□□

003 ◇◇◇

コード	補助科目名
001	市内
002	市外
003	県外
999	その他

3. 補助科目コードは、001からの連番で設定してください。。
4. 門別に名称を変える必要が無い場合は“しない”にしてください。
5. “しない”にすると、個別に設定した名称は消えて共通の補助科目名称になります。
6. 補助科目には、予算の入力が出来ません。
7. 補助科目を付けた科目は、仕訳の入力で必ず何れかを選択してください。
もし、該当しないものがあると予想される場合は、999 その他 を入れてください。
繰越金が必要のないP/L科目では、補助科目よりも“摘要名集計”が便利です。